

るチョウではない。主として樹林周辺や山地の路傍に見られ、平地や草原には生息しない。当地では偶産種と思われる。これで清荒神で確認された種は41属53種、タテハチョウ科は13種となる。

宍粟郡波賀町水谷の甲虫 (兵庫県甲虫相資料・102)

高橋寿郎

波賀町の原、赤西、音水、引原の各地域は豊富な昆虫(甲虫)相でその調査に訪れる人も多く、また数多くの報文も発表されていてその概畧が遂次解明されつつあることは大変喜ばしい次第である。これ等地域と丁度反対側(引原川をはさんで東側)は道谷附近をのぞいては、ほとんど調査されていないのが現状であろうと思われる。幸1981年7月12日蜂谷幸雄氏の御好意で水谷を訪問することが出来、そこでの甲虫の調査をすることが出来た。特に珍しいものはいないのだがこの地域からの甲虫相に就いては全く無いことから此処に記録を発表しておくことは強ち無意味でもないと考えあえて発表させて頂くことにした。末文ではあるが、この調査の機会を与えて下さった蜂谷幸雄氏に厚く御礼申しあげる。

甲虫相の概説

この波賀町水谷は国道29号線を姫路から北方、波賀町有賀と上野の接する地点を引原川から別れて水谷川に沿って東北に入り、下水谷、水谷の部落を経て奥水谷に行く手前で右折道路は可成り舗装された所を山の上にあがる。車は標高800メートル近くまで行ける。この道は先の地点に迄通じていないのであった。従って或る地点迄で引き返さなくてはいけないようである。

山の頂上迄杉の植林地域で、一方は視界も開け水谷の部落がよく見えて素晴らしい状況である。標高750メートル位の地に可成り広い湿地帯が広がり、その中を溪流が流れていて大変状況のよい所であったが何分にも足場が悪く、そのあたりの調査がほとんど出来なかった。

時間をかけて調べると面白そうである。植相は広葉樹がほとんど見られないし、原生林的なものもなく伐採材の集積場所とか台場のような地点も見当らなかったで、これ等甲虫類の集る恰好の場所が無く充分の調査が出来なかった。したがって杉植林に囲れた比較的単純な植相での甲虫相と考えられた。たゞもう少々時間をかけると違った面での甲虫相もわかると考えられる。

採集出来た甲虫は29科96種(若干の未同定種がある)だった。まずもって余り特徴の無い平凡な甲虫相を呈していると云うことが、今回の調査ではわかった。特に注意しなくてはならない様な種も見られなかった。僅か1日の調査であるから(時間的制約もあった)ほんのこの地域での甲虫相の入口に

立った程度であるが何分にも県下からこの地域の甲虫の報告は皆無なので、以下各科目毎に気付いたことを記録しておき度いと思う。たゞ目録的なものは頁数の関係で省略して普通種に就いては和名のみを記した。また全部の種名の後の活弧内の数字は当日の採集個体数である。

○ ハソミョウ科 Cicindelidae

ヒメハンミョウ *Cicindela elise* (5). 平地性で川原などにいたり、海浜近くにいる種と云うことであるが、県のほぼ中央部で標高800メートル近くの所に多くいたことは注目された。

ニワハンミョウ (2). 余り多く見られなかった。内1頭は道路の側溝を歩いていて背面のほとんど黒い個体だった。ハンミョウの方は注意したが見られなかった。

○ オサムシ科 Carabidae

ヤコンオサムシ *Apotomopterus yaconinus* (♂)。道路を歩いていた1♂を採集。他のオサムシは注意したが見つけられなかった。

ミヤマメダカゴミムシ *Notiophilus impressifrons* (2). 杉林内で杉の枝打ちが実施された後だったので枝が転がっていた。それを除いた下で2exs. を採集。もっと探したら多く採集出来る環境であった。本種は県下では余り産地の知られていない種である。

アトボシアオゴミムシ (1). クロヒゲアオゴミムシ (1).

○ ハネカクシ科 Staphylinidae

オサシテムシモドキ *Apatetica princeps* (2). 葉上に見られた。本種は兵庫県下での記録が案外少い (Sharp 氏により摩耶山と山本氏の氷上郡があるだけ)。ツマグロアカバハネカクシ *Hesperus tiro* (1).

○ クワガタムシ科 Lucanidae

このあたりは針葉樹、杉主体の林相で広葉樹が大変少く、クヌギ、ニレ、ヤナギ等が余り見られないのでこの仲間の産出は少いようで全く見られなかった。丁度歩いている前方に飛来して仰向けにひっくり返ったコクワガタ1♀を採集しただけである。

○ センチコガネ科 Geotrupidae

このあたりであるからオオセンチコガネがいると考えられたが糞が全く見出せないで遂に採集出来なかった。センチコガネ *Geotrupes laevistriatus* 1♀が側溝にいたのを採集した。

○ コガネムシ科 Scarabaeidae

糞虫類はセンチコガネの所でのべた様に動物の排泄物が全く見られないので採集出来なかった。何処かにいると思われるのだが——。樹液に集るカナブンとか *Protaetia* の類が見られないし、

杉の樹ばかりなのにスジコガネ、オオスジコガネも見つからなかった。ドウガネブイブイとかコガネムシも注意したが見られなかった。ノリウツギの花が咲いているのでオオトラフコガネの期待もあったが駄目だった。ヒメアシナガコガネ(1)。ハイイロピロウドコガネ(1)。ヒゲナガピロウドコガネ *Serica boops* と思われるものを見つけたが採り逃した。マメコガネ(2)。ヒメスジコガネ(5)。ツヤスジコガネ *Mimela difficilis*(1)。ツヤコガネ *Anomala lucens*(9)。セマダラコガネ(7)。ナガチャコガネ(1)。アオハナムグリ(3)。コアオハナムグリ(1)。

○ タマムシ科 *Buprestidae*

シロオビナカボソタマムシ(1)。ミドリツヤナガタマムシ *Agrilus insuspectus*(1)。本種は県下では中央部から北にいる種のようにそう個体数が多くないようである。ヒメヒラタタマムシ(1)。ソーダズチビタマムシ(1)。

○ コメツキムシ科 *Elateridae*

ヒメクロツヤハダコメツキ(1)。チャイロコメツキ(1)。ムネアカクロコメツキ *Ischnodes sanguinicollis*(1)、本種の県下での記録は余り多くない。

○ ホタルモドキ科 *Drilidae*

ホソホタルモドキ(2)。

○ ホタル科 *Lampyridae*

オバボタル(3)。

○ ジョウカイボン科 *Cantharidae*

クロズコバネジョウカイ(1)。

○ ベニボタル科 *Lycidae*

ベニボタル(40)。ノリウツギの花上に極めて多く交尾中のものも割合見られた。

○ カッコウムシ科 *Cleridae*

ムナグロナガカッコウムシ *Opilo niponicus*(1)。本種は兵庫県下での記録は案外と少い。

○ ケシキスイ科 *Nitidulidae*

ムネアカチビケシキスイ(1)。キベリチビケシキスイ(2)。クロハナケシキスイ(1)。マメヒラタケシキスイ(1)。

○ コメツキモドキ科 *Languriidae*

ツマグロヒメコメツキモドキ(1)。

- テントウムシ科 *Coccinellidae*
クビアカヒメテントウ(1)。セスジヒメテントウ *Nephus patagiatus* (1), 本種は県下での記録は少い。ナナホシテントウ(1)。テントウムシ(1)。
- ゴミムシダマシ科 *Tenebrionidae*
ニジゴミムシダマシ(2)。キマワリ(2)。
- ハムシダマシ科 *Lagriidae*
スジコガシラゴミムシダマシ(1)。
- クチキムシ科 *Alleculidae*
オオクチキムシ(1)。ツヤバネヒメクチキムシ(1)。キイロクチキムシ(8), 本種はノリウツギの花に多く来ている。
- チビキカワムシ科 *Salpingidae*
ムネマルチビキカワムシ(1)。
- ナガクチキムシ科 *Melandryidae*
アオオビナガクチキムシ(1)。
- オオハナノミ科 *Rhipiphoridae*
オスグロオオハナノミ *Macrosiagon cyaniveste* (1♂, 1♀), ノリウツギの花上より。本種も県下の記録はそう多くない。
- ハナノミ科 *Mordellidae*
オオキボシハナノミ *Hoshihananomia auromaculata* (2)。オナガクロハナノミ *Mordella onaga* (2)。共に県下からは初記録となる。このグループの県下での調査はほとんどないのが現状である。トゲナシヒメハナノミ(2)。
- カミキリモドキ科 *Oedemeridae*
シリナガカミキリモドキ(1)。キバネカミキリモドキ(2)。キイロカミキリモドキ(11)。いずれもノリウツギの花上にて得る。特にキイロカミキリモドキは多くいた。
- カミキリムシ科 *Cerambycidae*
ノコギリカミキリ(1)。ツヤケシハナカミキリ(2)。ニンフハナカミキリ(6)。マルガタハナカミキリ *Judolia cometes* (4)。ヨツスジハナカミキリ(24)。ヒゲジロハナカミキリ(1)。エグリトラカミキリ(15)。ホソトラカミキリ(1)。キイロトラカミキリ(2)。クスベニカミキリ *Pyrestes*

haematicus (1). アトジロサビカミキリ(1). ラミーカミキリ(1). 道端にカラムシが大変多いので本種がいると注意して見たが僅か1頭しか得られなかったし他に逃がしたのが2頭程いた。若干時期が遅かったのかもしれない。

シラホシカミキリ(5). リンゴカミキリ(1). ヘリグロリンゴカミキリ(2). カミキリムシ科の場合その大部分をノリウツギの花で採集した。特にヨツスジハナカミキリ, エグリトラカミキリは多くいた。このあたり材木を倒して置いてあるような所が全く見られなかった。大変手入の行き届いた山地帯でその意味では採集ポイントの発見が出来なく大変少い結果に終わっている。

○ ハムシ科 Chrysomelidae

バラルリツツハムシ(3). オオクロスジツツハムシ *Cryptocephalus scitulus* (6). カシワの葉のつけ根あたり注意して見ると割合多く産することが見られた。

クロボシツツハムシ(1). ドウガネツヤハムシ(3). ドロノキハムシ(1). フジハムシ(1). ムナグロツヤハムシ(4). キアシノミハムシ(4). サメハダツブノミハムシ(2). クロルリトゲハムシ *Rhadinosa nigrocyanea* (1). 砥の峯には多産するがその他の地域では必ずしも多く産する種ではなさそうである。

○ オトシブミ科 Attelabidae

チャイロチョツキリ(3). カシルリオトシブミ(1). ゴマダラオトシブミ(1). セアカヒメオトシブミ(1). ヒメクロオトシブミ(1).

○ ホソクチゾウムシ科 Apionidae

マメホソクチゾウムシ *Apion collare* (1).

○ ゾウムシ科 Curculionidae

ハダカヒゲボソゾウムシ(1). ウスイロヒゲボソゾウムシ(1). シロコブゾウムシ(2). ヒメシロコブゾウムシ(2). コフキゾウムシ(1). オジロアシナガゾウムシ(1). タデサルゾウムシ(1). リンゴノミゾウムシ(1). チビデオゾウムシ(3).

以上で水谷地域の甲虫類の産出種96種を報告した。始めに記したようにほんのファウナの片鱗を見た程度であるが県下で初めての記録としての意義はあると思われる。

(IX. 1981).